

「第16回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和2年10月22日(木) 17時45分
都庁第一本庁舎7階 大会議室

【危機管理監】

それでは、第16回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を開始いたします。本日も感染症の専門家といたしまして、東京都医師会副会長でいらっしゃいます、猪口先生と、国立国際医療研究センター国際感染症センター長でいらっしゃいます、大曲先生にご出席をいただいています。

また、東京iCDC専門家ボードの座長でいらっしゃいます、賀来先生には、オンラインで参加をいただいております。よろしくお願いいたします。

それでは早速ですが、「感染状況・医療提供体制の分析」につきまして、まず「感染状況」について、大曲先生からお願いいたします。

【大曲先生】

ご報告いたします。

「感染状況」でありますけれども、総括の状況としましては、「感染の再拡大に警戒が必要であると思われる」というところがございます。4段階の上から2番目です。

新規陽性者数、それと接触歴等の不明者数が高い水準のまま推移しているという状況であります。今後の動向に警戒が必要と考えております。

感染の予防策の基本である、「手洗い、マスク着用、3密を避ける」等を、改めて徹底する必要があると考えております。

それでは具体的な内容に入って参ります。

まずは、①の「新規陽性者数」であります。

①-1 ですが、新規陽性者数の7日間平均ですけれども、前回10月14日時点は約181人でありましたが、10月21日時点で約172人と、横ばいでした。

新規陽性者数の増加比、これが100%を超えますと、増加傾向の指標となります。

この増加比、前は112.1%でしたが、今回10月21日時点で94.9%と今回は低下しております。この増加比が100%前後で推移するということは、これは新規陽性者数が現状でいきますと、高止まりとなるということを意味しております。

現時点で、今、欧米の患者増加が問題なっておりますが、そのような急激な感染拡大は、今は認めておりませんが、高い水準のままの新規陽性者数が再び増加することへの警戒が必要と考えております。

新規陽性者数、これを週あたりで合計しますと、1,200人を超えます。このような高い水

準で推移している中、一時ですね、約2ヶ月ぶりでありましたけれども、1日あたり280人を超える報告者があったという、そういう日がございました。

説明できる状況としましては、新たなクラスターの複数発生等がありまして、新規陽性者数の更なる増加に警戒が必要と考えております。

それでは、①-2に移ります。年代別のデータでございます。

①-2でございますが、10月13日から10月19日までの報告では、年代別では10歳未満が2%、10代が6.4%、20代が24.4%、30代が19.8%、40代が15.8%、50代が12.3%、60代が7.6%、70代が5.7%、80代が4.8%、90代以上が1.3%という状況でございました。

そこで、①-3に移って参ります。高齢者のデータでありますけれども、今週の新規陽性者数に占める65歳以上の高齢者の患者さんであります。前週の10月6日から10月12日まで、この数値が117人、全体で12.7%だったわけですが、今回は190人、比率として15.1%でありまして、患者数、絶対数は増加し、全体に占める割合も上昇したというところでございます。

次、①-4、感染経路に移ります。今週の濃厚接触者における感染経路別の割合でございますが、同居する人からの感染が、前週の31.8%から37.4%に増加し、これが依然として最も多いという状況でございます。次に、施設での感染です。具体的には、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、病院、保育園、学校等の教育施設等が含まれますけれども、ここでの感染が、前週21.7%から今回は22.7%となっております。これに次ぎますのは、職場でありまして12.4%、その次に会食9.7%、接待に伴う飲食店等が5.6%という順でございました。前週との比較では、同居する人から及び職場での感染の割合が増加したという状況であります。

この経路を年代別で見ると、10代以下では、同居する人からの感染、これが前週45.1%でしたが、今回56.6%と、大きく増加しまして、最も多いというところ。施設での感染でありますけれども、前週31%だったのが、今回は28.9%に下がっているというところ。20代になりますと、大学等の施設での感染が23.5%の最も多くて、次いで同居する人からの感染が21.7%でございました。30代から70代ありますが、同居する人からの感染が40.6%と最も多い状況でありまして、次に多い経路ですが、これは30代から50代では職場でありまして18%、60代から70代では施設、これが21.7%でありまして、80代以上では施設での感染が74%と最も多いと、それに次ぐのが同居する人からの感染で22%という状況でございました。

今週でもですね、同居する人からの感染が最も多いというのはこれ変わっておりません。ただし、職場ですとか、施設、会食、そして接待を伴う飲食店のようにですね、様々な場所での感染が報告されているという状況であります。

職場、施設、あるいは飲食店、ここで感染が拡大しますと、患者さんがそれをご家庭内に持ち込むということになります。その中で、家族の中で感染拡大する可能性が高まります。

換気が不十分で、人が密になる狭い区間、休憩室等挙げて参っておりますけれども、こういったところでもですね、基本的な感染対策である、「手洗い、マスクの着用、3密を避ける」といったこと、これを改めて徹底する必要があると考えております。

今後、年末に向けて、大人数の会食の機会が増えると想定されます。このような行動に伴って、感染のリスクが増加しまして、新規陽性者数がさらに増加することを懸念しております。

どういうことが起こりますかという、人と人が密に接触するですとか、あるいはマスクを外して長時間に及ぶ飲食・飲酒を行う、あるいは大声で会話をする、こういった行為が、リスクが高いわけですが、これに留意をしてですね、基本的な感染予防策を徹底することが重要と考えております。

また、クラスターのお話なのですが、今週は、複数の病院、高齢者施設、大学の運動部、劇団といったところで発生が報告されています。第一波の頃のような大規模なクラスターの発生はございませんけれども、院内・施設内感染の拡大防止対策の徹底が必要と考えております。

ただ、医療機関にしても、介護施設にしても、この点、非常に細心の注意を払われていると思って見ております。ただ、やっぱりなかなかこういう施設で、患者さんが出た、職員から出た、患者さんから患者さんが出た、という場合に対応するとなると、なかなか慣れていないと、慌てたり、対応の仕方がわからなかったりということがあつたのも事実です。

ということもありますので、都の方では、クラスターが発生した病院に対して、保健所とともにですね、東京 iCDC の感染対策支援チームを派遣しまして、そのような施設の支援を行っているという状況でございます。

その他のルートとしては、友人とのドライブ、旅行、あるいは会食を通じての感染例、パブ、クラブ等での感染例がございました。

次に①-5に移ります。今週の新規の陽性者 1,256 人のうち、無症状の陽性者は 230 人、18.3%でございました。この 230 人という数字ですけども、実際に職場に陽性者が発生したということもあつて、自発的に検査を受けられた方がいらっしゃるし、あるいはその陽性者の周りにいらっしゃる方、濃厚接触者を保健所で調査したということであつた数になつております。

無症状のこうやって調査をして陽性者を見つけることですね、無症状の陽性者が早期に診断されて、感染の拡大防止に繋がるということが期待されるわけでございます。

特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、病院等、重症化リスクの高い施設、あるいは訪問看護等ですね、無症状、あるいは症状の乏しい職員さんを発端とした感染が見られております。こうした場ではですね、やはり守るべきでありまして、厳重な警戒、それと高齢者や入院患者さんの感染予防を目的とした検査体制の拡充が必要と考えております。

また、職員さんの話を先ほどしましたが、体調不良のときにですね、すぐに検査が受けられるような、そういう配慮を職場で、地域でやっていく必要があるかと思つた。

次に、①-6に移って参ります。地域別の、保健所別のデータでございますけれども、今週の保健所別の届け出数ですが、大田区が一番多くて141人、11.2%でございます。次は世田谷区が99人ですね、7.9%、その次に新宿区が84人、6.7%、足立区が80人、6.4%、港区が71人、5.7%の順でございました。島しょを除く都内全域に感染が拡大しているという状況でございます。

次に②の#7119に移って参ります。「#7119における発熱等相談件数」でございます。

こちらに関しましては、7日間平均は、前は57.6件でございましたが、10月21日時点では49.9件に減少していたという状況でございます。

次に、③「新規陽性者数における接触歴等不明者数・増加比」についてでございます。

接触歴等不明者数、7日間平均です、前回約105人でしたが、10月21日の時点で約97人ということで、横ばいでした。

ただ、やはり接触歴等不明者数、これ引き続き高い水準にございますので、引き続き警戒が必要と考えております。

次に、③-2の増加比にお話を移して参ります。この接触歴等不明者数の増加比、これが100%を超えるということは増加傾向を示すわけですが、10月21日時点での増加比は、前回116.5%から、実は92.8%にやや下がっております。

今回ですね、接触歴等不明者の増加比が100%を下回っておりますけれども、今後、人の往来ですとか、様々な活動、これが増えることで、再び増加に転じることへの警戒が必要と考えています。

「感染状況」については、以上でございます。

【危機管理監】

ありがとうございました。

引き続きまして、「医療提供体制」につきまして、猪口先生からお願いいたします。

【猪口先生】

では、「医療提供体制」について、この一番最初のページですけれども、検査の陽性率、それから東京ルール、入院患者数、重症患者数、これがすべて、ほぼ横ばいです。

ちょっと下がってはいるんですけども、有意ではないということで横ばいとさせていただいております。

総括コメントは「体制強化が必要であると思われる」ということで、上から2段目で変わらずであります。

入院患者数の急増にも対応できる病床の確保が依然として必要な状況、要するに横ばいではあるんですけども、かなり高い数字で、入院患者数も、それから重症患者数もですね、高い数字で推移しておりますから、いざというときのための病床の確保が依然として必要な状況であると、入院患者数、重症患者数の推移に引き続き警戒が必要であります。

では、詳細な方のコメントに行きます。

④です。「検査の要請率」、7日間平均のPCR検査等の陽性率は、前回の3.9%から10月21日時点の3.6%と、ほぼ横ばいでした。

また、7日間平均のPCR検査数の人数は、前回は4,051.6人、10月21日時点で3,975.4人と横ばいでした。

新規陽性者数とPCR検査等の陽性率は、前回上昇しましたが、ほぼ横ばいであるため、その推移に警戒をする必要があります。

感染拡大の観点から、先ほど大曲先生の方からもお話がございましたけれども、無症状者も含めた集中的なPCR検査を行うなどの戦略的な使い方、検査ですね、を検討する必要があります。PCR検査については、現在10,200件の検査能力を確保しております。

⑤です。「東京ルールの適用件数」は、35件前後で推移しており、前回と10月21日時点とほぼ同数であります。

⑥-1に参ります。10月21日時点の入院患者数は、前回の1,008人から990人となりました。

新規陽性者数及び接触歴等不明者数の増加比が100%前後で推移しており、入院患者数の急増にも対応できる病床の確保が依然として必要な状況であります。医療機関への負担が強い状況が長期化しております。

⑥-2、お願いします。検査陽性者の全療養者数は、10月21日時点で1,669人でした。青の入院患者が990人、黄色の宿泊療養者が268人、赤の自宅療養者が202人、入院・療養等調整中が209人です。

保健所から入院調整本部への調整依頼件数は、1日65件程度で推移していますが、緊急性の高い重症患者、認知症や精神疾患を持つ患者の病院施設からの転院などで、受入先の調整が難航する事例の割合が増加しております。特に、日祝祭日は受入可能な病床数が少ない状況が続く、調整が難航しております。

では、「重症患者数」、⑦-1、重症患者数は前回の25人から10月21日時点で24人と、横ばいです。

今週、新たに人工呼吸器を装着した患者は9人であり、人工呼吸器から離脱した患者は5人、人工呼吸器使用中に死亡した患者が5人でありました。

10月21日時点で、人工呼吸器を装着している患者が24人で、うち4人の患者が、ECMOを使用しております。高齢者層の新規陽性者数の割合が増加している中、今後の重症患者数の推移に警戒が必要です。

⑦-2、お願いします。10月21日時点の重症患者数は24人で、年代別内訳は50代が7人、60代が5人、70代が7人、80代が5人であり、50代、60代は、死亡者数は少ないものの、重症患者数の約半数を占めております。性別では男性17人、女性7人でした。

今週報告された死亡者数は15人であり、そのうち70代以上の死亡者が12人でありました。今週は、前々週の7人、前週の8人から増加しており、引き続き注視する必要があります。

す。

「医療提供体制」については以上であります。

【危機管理監】

ありがとうございました。

それでは、次に意見交換に移りたいと思います。

今、ご説明のありましたモニタリング分析結果と、それから都の対応等も含めまして、何かご発言ある方いらっしゃいましたらお願いします。

福祉保健局長からお願いします。

【福祉保健局長】

先ほどの大曲先生のコメントにもございましたけど、新規陽性者数に占める 65 歳以上の高齢者の人数、割合ともに増加しているという状況でございます。

高齢者の感染経路は、施設内が多いというご報告がございましたけれども、こういった状況に対応するため、高齢者施設等への新たな支援を開始いたしますので、この場でご説明申し上げます。

「高齢者施設等における新型コロナウイルス感染症対策の強化」という資料をご覧くださいたいと存じます。

東京都では、新型コロナウイルスに感染した場合の重症化リスクが高い高齢者等が入所する施設での感染防止を図るため、利用者や職員を対象とした行政検査以外の PCR 検査等にかかる経費の補助を行うことといたしました。

事業の実施に当たりましては、施設が検査機関を選択する際の参考となるよう、検査にご協力いただける民間検査機関を公募して参りました。

公募では、検査体制や保健所の業務に影響を与えないよう、行政検査に支障をきたさないことや、検体採取から回収まで一貫して対応できることなどを要件といたしました。

9 月末を締め切りとし、その資料の下にございます 3 社からご応募いただきました。施設からの申し込みの手続きや、検体回収の方法など詳細の確認が終了いたしましたので、このたび、この 3 社と事業協力に関する協定を締結させていただきました。

今後、都のホームページや、関係団体を通じて、施設に対し、この協力事業者について周知して、この事業を確実に進めたいと考えております。

以上でございます。

【危機管理監】

ありがとうございました。

他にご発言のある方いらっしゃいますか。

よろしければ、オンラインで参加していただいています賀来先生、ご発言ありましたらお

願います。

【賀来先生】

一言発言させていただきます。

いま大曲先生、そして猪口先生から、「感染状況」、「医療提供体制」について、発言がございました。

ヨーロッパで、急激にまた感染が拡大しております。いっぽう、日本ではそれほどの拡大は見られておりませんが、やはり今、ご発言にもありましたように、東京都では引き続き高い水準で推移しています。

そのため、検査によって、早期に診断していくことと、感染拡大防止をしっかりとっていくことが重要だと思います。

そのためには、やはり都民の方々のご協力と各業種の皆様方がガイドラインに基づいた、しっかりとした感染防止対策をとっていただくよう、これからも啓発をしっかりとおこなっていく必要があると思っております。

また、猪口先生が言われましたように、病床を確実に確保しておくことが非常に重要で、これから感染が拡大した時のためにも、そのような病床の確保といった総合的な対応が、これからも必要になってくると思われます。

また、先ほどの発言にもありましたように、10月1日から東京 iCDC が発足し、感染対策チームが、病院へのクラスターへの支援に活動を開始しております。

加えて、活動のご紹介ですけれども、「リスクコミュニケーション」のボードでは、都民の方々の新型コロナウイルス感染症に対する意識調査、そういったアンケート調査を始めております。都民の方々のいろいろなお考えを踏まえて、より細やかな情報提供を進めていくような、そういった活動が開始されております。

また、「検査・診断」、あるいは「感染症診療」チームにおきましても、インフルエンザの同時流行を控えて、検査・診療体制のフローなどの作成の支援を、これから行って参りたいと思います。

以上でございます。

【危機管理監】

ありがとうございました。

それでは、会議の最後といたしまして、知事からご発言をお願いいたします。

【都知事】

それでは、第16回のモニタリング会議、最後一言申し上げます。

まず、猪口先生、ありがとうございます。大曲先生も、いつもありがとうございます。

そして、Web で参加していただいております賀来先生、お忙しいところご出席を賜って

おりますこと、感謝申し上げます。

そして、先生方から、先週に引き続き、「感染状況」は、オレンジ色、「感染の再拡大に警戒が必要であると思われる」、「医療提供体制」では、同じくオレンジ色、上から2番目、「体制強化が必要であると思われる」との総括コメントをいただきました。

「感染状況」については、新規陽性者数、接触歴等不明者数が高い水準のまま推移しており、今後の動向に警戒が必要であるということ。

感染経路について、家庭内での感染が依然として最多、前週と比べますと、家庭内及び職場での感染の割合が増加している。

重症患者数については、重症化リスクが高い高齢者層の新規陽性者数の割合が増加をしていて、今後の推移に警戒が必要。

今週報告された死亡者15人のうち、12名が70代以上であるとのことご指摘をいただきました。

以上のご指摘を踏まえまして、都民・事業所の皆様方へのお願いでございます。

都民の皆さんには、家庭内に感染を持ち込まないように、職場、会食において、マスクの着用、3密の回避など、基本的な感染防止対策の徹底をお願いいたします。

また、福祉保健局長から報告がありましたように、重症化のリスクが高い高齢者などが入所される施設においての感染を拡大防止のために、利用者、また職員を対象に検査を実施する場合の支援体制を整備したということでもあります。

引き続き、都民・事業者の皆様とともに、「防ごう重症化 守ろう高齢者」、この対策を進めて参りたいと存じます。

引き続き、都民・事業者の皆様方にはご理解・ご協力のほど、改めてお願いを申し上げます。

私から以上です。

【危機管理監】

ありがとうございました。

以上をもちまして、本日のモニタリング会議を終了いたします。

どうもありがとうございました。